

## 下水道の流入水・放流水の亜鉛濃度 (名古屋市の例)

流入水の亜鉛濃度が0.08mg/lとなっている処理場については、住宅地が多く生活排水の割合が高い地域となっている。また、流入水の亜鉛濃度が0.4mg/lを超過する処理場については、他に比べて工場が多い等の傾向が見受けられた。

### 平成16年度 水質検査結果(年間平均値)

処理場名	流入水 (mg/l)	放流水 (mg/l)
堀留処理場	0.15	0.06
熱田処理場	0.13	0.04
伝馬町処理場	0.49	0.12
西山処理場	0.08	0.03
山崎処理場	0.47	0.05
千年処理場	0.41	0.11
岩塚処理場	0.13	0.04
名城処理場	0.11	0.05
鳴海処理場	0.17	0.04
柴田処理場	0.11	0.03
打出処理場	0.15	0.03
宝神処理場	0.16	0.04
守山処理場	0.11	0.06
植田処理場	0.08	0.03
平均	0.20 (0.13)	0.05

( \* 1 ) 名古屋市上下水道局ホームページより。なお、露橋処理場については、平成16年度に施設を改築中のため水質データなし。

( \* 2 ) 平均値の ( ) 書きは、流入水の濃度が0.4を超過するものを除いた平均値を参考に求めた。